

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

施設名： 通所介護 くらしの家

施設種類： 認知症対応型通所介護

日時： 令和6年12月20日 10:30～11:30

会場： 通所介護 くらしの家 相談室

出席者：

利用者代表	0人	第三者委員	1人
利用者家族	2人	出雲市健康福祉部 高齢者福祉課 職員	1人
事業所職員	2人		

（議題）

1. 挨拶
2. 自己紹介
3. 活動報告
4. 意見交換
5. その他

3. 活動報告（事業利用状況、及び前年度との比較による運営状況）

- 1）月別利用延べ人数（R5年度実績とR6年度実績の比較と傾向）
- 2）曜日別登録者数（R6年4月とR6年11月の比較）
- 3）利用者の介護度（R6年4月とR6年11月の比較）
- 4）紹介居宅事業所数（R6年4月とR6年11月の比較）
- 5）利用者の平均年齢（R6年4月とR6年11月の比較）
- 6）自主事業（R6年5月～R6年11月の実績）
- 7）職員資格（R6年4月とR6年11月の比較）
- 8）一日の流れ
- 9）年間行事計画
- 10）防災訓練計画
- 11）ボランティア受け入れ状況
- 12）苦情・ひやりはっと・事故報告
- 13）職員会議、職員研修計画
- 14）環境整備の取り組み計画

4. 意見交換（評価、要望、意見、助言等）

高齢者福祉課：職員確保は難しいと話されたが、どういう時に職員が足りないと感じられるか。

くらしの家：他の事業所などの話を聞いてもどこも人手が足りない聞く。帰宅願望がある方、落ち着かずに歩き回られる方一人一人に職員が付いている状況であり、見守りの目が必要となるため人員不足を感じている。目が届かない事が怖い。昨日も食事前に一人の方が外に出てられ戻られないため、車で先回りをして迎え

に行った。偶然を装って声をかけると車に乗られ戻られたが、その時は職員が2人不在な状況だった。

第三者委員：苦情がなかった事が良かった。ヒヤリハットはすごく詳しく書かれていて良い事だと思う。色々な行事を工夫してされ、利用者も楽しみにしておられると思う。全国的に運営が厳しい状況の中で、小規模ながら内容を充実されていて良いと思う。

くらにしの家：去年は利用状況に厳しい状況が続き、存続の危機を感じ、どのようにしたら良いかを考えた。時間を少し短縮して、利用料の単価を1段階減らして工夫を試みた。それが良かったかは分からないが、少しずつお話を頂き、新規利用に繋がったかもしれない。まだまだ厳しい状況だが、継続していきたい。

利用者の妻：今年の3月から通わせてもらって、すごくいい所。大社の遠い所まで迎えに来てもらい感謝している。行きつけの美容院でくらにしの話をすると、「いい所ですね」と感心しておられた。おじいさんは、帰ってから今日あった事は忘れてが「今日おら、行きたわー」と言って思い出して言っている。色んな所へ連れて行ってもらっている。

利用者の娘：父は認知症になったが、こんなにしっかり呆けると思っていなかった。多々1人で出掛けて帰られなくなり、警察にもお世話になる事もあり、認知症デイを紹介していただいた。認知症の方は、一人に一人が付き添い寄り添って歩く事大事だと思う。パニックになると予想しない行動をとられる。それが大きな事故に繋がる事がある。人員が足りないという事は、通っておられる方の安全が守られないという事。出雲市の方に十分に職員が確保できるようにしていただきたい。一般と違って認知症は特別で、ここの職員さんはご苦労で大変だと思う。以前は募って団体に資格が取れる制度もあったと思う。そういった制度がまた復活すると良いと思う。父は今、精神的に安定してきた。くらにしへ毎日通うことによって顔なじみができ、突拍子もない事を言わなくなり、表情良く落ち着いている。認知症の方は心の安定が一番良い事だと思う。

5. その他

施設内見学、年間の活動写真を見ていただく。